

宇美町立小中学校

家庭学習のすすめ

初版発行 令和5年4月1日

第2版発行 令和6年4月1日



宇美町家庭教育7箇条

- ①毎朝の朝食を食べる習慣を身に付けさせます。
- ②決めた時刻に就寝する習慣を身に付けさせます。
- ③身の回りの片付けをする習慣を身に付けさせます。
- ④学習や家の手伝い・仕事をする習慣を身に付けさせます。
- ⑤「してよいこと」と「そうでないこと」をしっかりと教えます。
- ⑥家族で会話をする機会を増やします。
- ⑦友だちと外で遊ばせます。



宇美町教育委員会学校教育課



宇美町のすべての子どもたちが、夢や希望をもって自らの人生や未来を切り拓き、心豊かにたくましく成長していくことがわたしたちの願いです。

そこで、宇美町教育委員会では、目標をもって自ら学習に取り組み、確かな学力を身に付け、課題を発見し解決できる子どもを育てるため、発達段階に応じた家庭での働きかけや取組などをまとめた宇美町小中学校共通のリーフレット『家庭学習のすすめ』を作成しました。

このリーフレットには、家庭で取り組むことができる学習内容や学習時間の目安、家庭で大切にしていきたいポイント、お子さまを理解し、支えるためのアドバイス等を取り上げています。ご家庭でのお子さまの学習や生活について、お子さまと保護者の皆さまとが話し合い、ご家庭での学習習慣を形成するためにも、このリーフレットを役立てていただければ幸いです。

学習習慣の基本は『家庭』から・・・

学校教育では、国語や算数（数学）、理科、社会、外国語などの学業以外にも様々なことを学ぶことができます。例えば、規則を守ることの大切さや苦手な人がいても上手に付き合う方法など、日常の学校生活の中で学ぶことはたくさんあります。社会に出ると、多様な年齢層やそれぞれ異なる価値観をもった人たちと仕事をするようになるため、本当に色々なことが起こります。楽しいこと嬉しいこともあれば、無碍（むげ）にされたり分かり合えない人と仕事をしなければならなかったりする瞬間もあるかもしれません。学校教育では、他者との関係を上手に築き上げながら、どのように対処すればいいのかなど、人間関係や他者との付き合い方などを学べる場なのです。

家庭教育とは、親がお子さまに対して、生活していく上で必要なことを教える教育です。学校のように決められた教科書や指導方法などはなく、日常や遊び、実用的な経験を通して学んでいきます。各家庭によって、教育方針や内容が異なり、生まれてから社会で自立するまでの長い期間続く教育です。家族のふれあいや基本的な生活習慣を通して、生活能力や豊かな感性、自尊心や自立心を育みます。



- ①友だちや先生とのあいさつ
- ②机に向かって学習
- ③友だちとの話合い
- ④係などの当番活動
- ⑤身の回りの整理整頓や給食の配膳
- ⑥苦手なものを残さずに食べる

【学校教育】



- ①家族や地域の人とのあいさつ
- ②場所を決めて学習
- ③家族との話合い
- ④家庭での役割（お手伝いや仕事）
- ⑤自分のことは自分で整理
- ⑥苦手なものも残さずに食べる

【家庭教育】

これらのことから、子どもたちが学校で学んだことを定着させ、学習習慣を身に付けさせるためには、家庭学習や家庭生活を充実させることが重要となります。授業で学んだことを自分のものとするための『家庭学習』、学校生活で学んだことを身に付けるための『家庭での躰（しつけ）』。そのために、『家庭教育7箇条』を意識して、学校と家庭とが連携して子どもたちの成長を支えていきましょう。

『鍛える・ほめる・のばす』指導を通して 主体的に学習に取り組むことができる宇美の子どもに

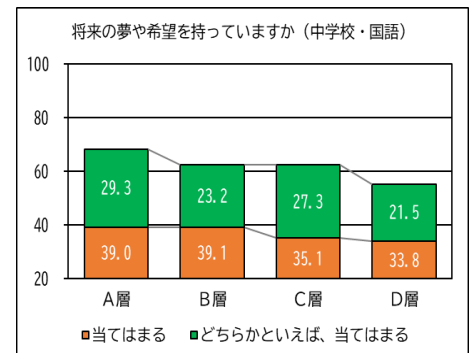
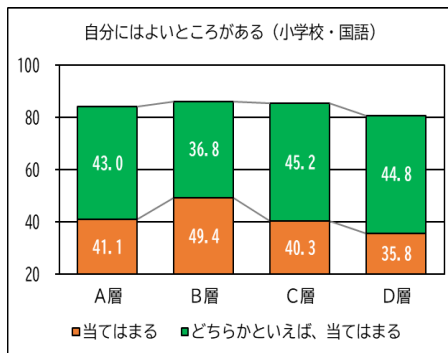
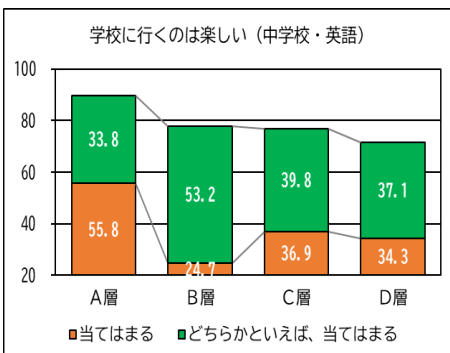
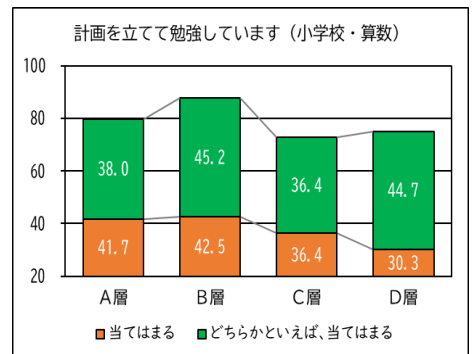
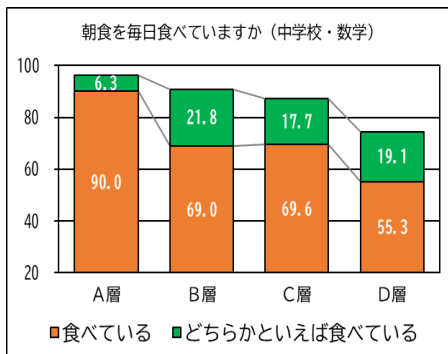
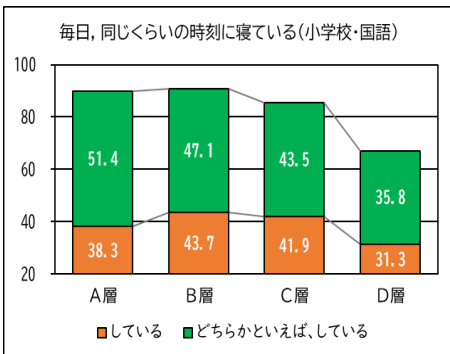
福岡県教育委員会では、「福岡県学校教育振興プラン」（平成 27 年 12 月）に、鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばすをコンセプトとした「鍛ほめ福岡メソッド」を位置付け、教育に関わるすべての指導者等が共有する福岡県独自の指導方法が示されています。

この「鍛ほめ福岡メソッド」は、子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や逆境に立ち向かう心など、子どもが自立的に成長するための原動力となる人格的資質を育成するための方法です。

現在、宇美町立小中学校においては、この「鍛ほめ福岡メソッド」を教育活動の様々な場面に取り入れ、児童生徒の可能性を伸ばす指導を行っています。

そして、学校だけではなく、家庭や地域等の場においても、切磋琢磨しながら努力することの大切さを感じさせたり、努力を続けたプロセス（過程）そのものを肯定的に認め合ったりするような風土を耕していくことが重要です。

さて、下の図は、令和 5 年度全国学力・学習状況調査の小学校と中学校の国語科と算数（数学）科、外国語（英語）科の学力層（児童生徒全員の正答数分布の状況から四分位により分類し、正答数の高い順に、学力層 A、B、C、D としたもの）の割合と生活習慣や自己有用感等との関連を示したものです。



グラフから読み取ることができる宇美町の子どもの特徴

- 同じ時刻に寝たり、起きたりするなど、規則正しい生活を送る子どもの方が、正答数が高い傾向にある。
- 朝食をきちんと食べてから登校してきている子どもの方が、正答数が高い傾向にある。
- 自分で計画を立てて勉強に取り組んでいる子どもの方が、正答数が高い傾向にある。
- 将来の夢や自分なりの目標を持っている子どもの方が、正答数が高い傾向にある。

このように、日々の生活において規則正しい生活を送ることや何事にも夢や目標をもって取り組むことなど、学校や家庭において規則正しい生活習慣を身に付けさせたり、様々な活動を通して子どもに自己有用感や達成感を味わわせたりすることが学力の向上にもつながっていることが分かります。

そのため、学校や家庭、地域が共働して子どもを育てていくという認識をもち、子どもが社会に出て行くための基盤づくりに努めていきましょう。

この時期の特徴

- 色々なことに興味をもちはじめ、行動の範囲が広がります。
- 仲間をつくって行動することを好み、口答えすることが増えてきます。
- 自分でやろうとすることが増えてきますが、まだ手助けは必要です。

- 国語科では新出漢字や漢字辞典の使い方、算数科では概数や角の大きさ、面積を求める問題など、新しく学ぶ内容が多くなります。
- 実験や観察、調べ学習など、友だちと協力して学習する機会が増えます。



◇家庭で大切にしたいこと◇

学習する場所や時刻、 取り組む時間を決めましょう。

- 何事も親子で話し合い、一緒にきまりを決め、約束を守ることができるように根気強く声かけをしましょう。
- テレビを見たり、ゲームをしたりする時間も話し合って決めましょう。
- ※『自分で決める（自己決定）』ことに意義があります。

励ましの言葉を たくさんかけましょう。

- できたことはどんなに小さなことでも見逃さず、たくさんほめましょう。
- 分からないことがあれば一緒に考え、課題を解決するという達成感を味わわせるようにしましょう。
- ※キーワードは『鍛える・ほめる・のびす』です。

宿題以外にも、様々な学習 に取り組みましょう。

- 親子で読書をしたり、新聞記事や地域のニュース、学校での出来事などを話題に取り上げたりしながら、積極的に会話をしましょう。
- 家庭におけるお子さまの役割を決めて、最後まで役割を全うする粘り強さを身に付けさせましょう。

◇こんなことをしてみましょう◇

国語科では・・・

- 学校で起こった出来事や心に残ったことなどを日記に残しましょう。
- 漢字などの練習は、筆順に気を付けて、丁寧に書く練習をしましょう。
- 分からない言葉や漢字が見つかった時には、進んで辞典で調べましょう。
- 場面の様子や登場人物の気持ちなどが伝わるよう、気持ちを込めて音読し、それを家の人に聞いてもらいましょう。
- 名前や住所など、色々な言葉を3年生で習ったローマ字で書いてみましょう。

算数科では・・・

- 筆算は位をそろえて、計算の手順を確かめながら落ち着いて計算しましょう。
- 分からない問題は、教科書やノートを見て、しっかりと確認しましょう。
- 分数の学習では、分数の意味や表し方についても理解できるようにしましょう。

その他にも・・・

- 興味があることを自分で調べてみましょう。学校図書館や地域の図書館にある本なども活用しましょう。

進んで本を読みましょう。

- 決まった曜日に読書をする時間を設定しましょう。読んだ本の感想を「読書ノート」などにまとめてみましょう。
- 次のような本を読んでみましょう。
『魔女の宅急便』 角野 栄子
『車のいろは空のいろ』 あまん きみこ
『きまぐれロボット』 星 新一
『小さなスプーンおばさん』 アルフ・プリョイセン
『チョコレート戦争』 大石 真

この時期の特徴

- 抽象的、論理的に物事を考えることができるようになります。
 - 自分が大切にされているのか、認められているのかなど、周りの評価が気になり、友だちの言動や大人の対応に敏感になります。
 - 自分を客観的に見つめられるようになるとともに、周囲に対して自分の考えを主張するようになってきます。
- *****
- 自分で課題を見付け、解決していく学習が多くなります。
 - 学習内容が多くなり、中学校での学習につながる大切な時期です。



◇家庭で大切にしたいこと◇

学習する場所や時刻、 取り組む時間を決めましょう。

- やりたいことと、やらなければならないことについて家庭でしっかりと話し合い、自主性を尊重して学習に取り組ませましょう。
- 生活リズムを見直すとともに、時間を大切にする意識を育みましょう。

やる気を育てましょう。

- 親子で会話をする時間を大切に、小さなことでもほめ、成長を認めましょう。
 - 様々なことに挑戦させ、できなくても頑張る過程を温かく見守り、お子さまの頑張りを励ましましょう。
- ※キーワードは『鍛える・ほめる・のびす』です。

一つ一つの学びが 深まるようにしましょう。

- ニュースを話題にしたり、読んだ本について親子で話し合ったりするなど、幅広い興味や豊かな心を育みましょう。
- 将来の夢について話をするなど、目標をもって何事にも取り組むことができるようにしましょう。

◇こんなことをしてみましょう◇

国語科では・・・

- 身近な発見や感動したことなどを短歌や俳句で表現してみましょう。また、音読は他の教科等においても、用語や内容の理解につながります。
- 学習した漢字や語句を使って詩を作ったり、短い文章を書いたりしてみましょう。
- 自分の気持ちや考えを整理しながら、心に残った出来事などを日記として残す習慣を身に付けましょう。
- 文章を書くときは、辞典を使いながら、習った漢字を使って書くことができるようにしましょう。

算数科では・・・

- 計算練習は繰り返し、毎日粘り強く取り組みましょう。
- 次の授業で学習するところを予習したり、その日の授業で学習したことをその日のうちに復習したりする習慣を身に付けましょう。
- 間違った問題は、なぜ間違えたのかを振り返り、納得するまで練習を繰り返しましょう。

その他にも・・・

- 新聞や雑誌に目を通し、興味をもった記事や気になった記事を切り抜いて集めてみましょう。

進んで本を読みましょう。

- 読んだ本の感想を「読書ノート」などにまとめたり、お家の人と感想等を話し合ったりしましょう。
- 次のような本を読んでみましょう。
 - 『太陽の子〈大長編版〉』 灰谷 健次郎
 - 『チョコレート工場の秘密』 ロアルド・ダール
 - 『二分間の冒険』 岡田 淳
 - 『シートン動物記オオカミ王ロボ』 アーネスト・T・シートン



温故知新おんこちしん・・・故（ふる）きを温（たず）ねて、新しきを知る

ことわざや格言に学びましょう。

早起きは三文の徳（得）

朝早く起きれば、健康にもよく、勉強がはかどるので得をするということです。「早寝、早起き、朝ご飯」など、時間を守った規則正しい生活習慣を身に付けることが大切です。

打たぬ鐘は鳴らぬ

自ら行動を起こしたり、努力をしたりしなくては、よい結果は得られないということです。やってみないと始まりません。やってみないと始まりません。まずは自分でやってみることが大切です。

石の上にも三年

冷たい石でも三年間座り続ければ温まることから、何事にも忍耐強さが大切であるということです。すぐに結果が出なくとも、諦めることなく最後までやり続けることが成功への近道です。

中学校は『大人社会』への入り口

中学校に進学すると、小学校の時とは違う新たな活動が始まります。

楽しいことも多い一方で、これまでとの違いに戸惑ったり、不安になったりすることもあります。こうしたいわゆる「中1ギャップ」が、不登校やいじめの原因になることもあります。

この時期の子どもは自信を失いがちです。そのため、積極的に声をかけ、励ましたり、成長を認めたりするなど、自己肯定感を高めるようにすることが大切です。また、気になる様子が見られるときには、早期に学校と家庭とが連携して対応することが重要となります。

思春期は、自立した大人へと成長するための入り口です。素直でなくなったり、反抗したりすることもあります。そのような時にも、伝えるべきことは伝えながら、温かく子どもを見守り、支え、一緒に悩みを共有できる環境づくりに努めましょう。

思春期の子どもはこんな時期

- 心と体の成長がアンバランスになりがちで、不安や悩みを抱えやすくなります。
- 家族に依存したいという気持ちと家族から自立したいという気持ちが混在します。
- 矛盾する大人の態度に対して反抗的になります。
- 仲間や友だちの影響を強く受けます。
- 他人から見た自分を意識しはじめ、他人と比べて落ち込んだり、無理に合わせようとしたりします。
- 中学校生活を有意義に過ごすためには、部活動との両立が大切です。



*Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow.
The important thing is not to stop questioning. (Albert Einstein)*

過去から学ぼう。今日を生きよう。明日に対して希望をもとう。

大事なことは何も疑問をもたない状態にならないことである。(アルバート・アインシュタイン)

この時期の特徴

- 部活動などで経験する縦の人間関係によって、礼儀を身に付ける一方で、対人関係や学業などによるストレスを感じやすくなります。
- 他人の目を意識し、目立つことを嫌ったり、無理に周りに合わせようとしたりします。
- 友だちの影響を強く受けるようになり、大人に対して反抗的になりがちです。

- 学習内容が高度になり、授業も教科担任制になるので、教科ごとに教員が変わることに戸惑ったり、得意・不得意な教科ができやすくなったりします。
- 定期テストが行われるようになり、学習内容の範囲が大変広くなり、学習方法や学習内容の理解等で悩むことが多くなります。



◇家庭で大切にしたいこと◇

学習環境を整え、自分に合った学習習慣や

学習方法を身に付けさせましょう。

- 日々の授業を大切にして、授業内容を定着させるための復習を家庭学習に取り組む際の基本とし、授業と家庭学習の取組を往還させましょう。
- 限られた時間を有効に使うことができるように目標をもち、短時間に集中して学習する方法を身に付けさせましょう。
- 部屋や机の上などを常に整理整頓するなど、学習への切り替えがすぐにできるように行動させましょう。

子どもの成長をしっかりと

見守りましょう。

- 心身とも急速に成長する時期です。小さな心や体の変化を見逃さず、子どもの成長を見守りましょう。
- 学ぶことの意味や学び続けることの大切さについて話をする機会をもちましょう。

◇こんなことをしてみましょう◇

国語科では・・・

- 漢字などをこまめに復習して覚えましょう。意味の分からない語句は辞典で調べましょう。
- テーマや構成を決めて文章を書く練習をしましょう。

外国語科では・・・

- 習った語句や基本文は、繰り返しノートに書いて覚えましょう。
- 教科書の本文を声に出して読んだり、書いたりする練習を繰り返しましょう。

読書の幅を広げましょう。

- 読んだ本の感想を「読書ノート」にまとめたり、友だちと紹介し合ったりしましょう。
- 視野を広げるために、色々なジャンルの本を読んでみましょう。

数学科では・・・

- 計算問題では、必ず途中の式を書くとともに、間違いをそのままにせず、確実に理解できるようにしましょう。
- 教科書の問題をもう一度解き直したり、ワークなどで類似問題に挑戦したりしましょう。

定期テストでは・・・

- 学習計画を立て、早めに取り組み始めましょう。
- 授業でのノートやプリントなどをもとに、自分なりにもう一度整理し直して復習しましょう。

『星の王子さま』
サン・テグジュペリ
『博士の愛した数式』
小川 洋子
『夢をかなえるゾウ』
水野 敬也
『ガラスのうさぎ』
高木 敏子



この時期の特徴

- 進学などの進路決定を控え、「やらなくては」と分かってはいても、思うようにならない自分にいらだつなど、気持ちが大変不安定になりやすい時期です。
- 実力テスト等の結果に一喜一憂し、優越感と劣等感の間で揺れやすく、反抗的な言動や態度をとりがちです。
- *****
- 3年生の学習内容に加えて、1・2年生の学習内容の復習も必要となり、家庭学習で計画を立てて学習することがこれまで以上に重要になります。
- 将来を見据えた目標をもつことが大切になります。学校では、その目標を見据えた進路を選択するための進路相談などを行います。



◇家庭で大切にしたいこと◇

計画的に時間を使う習慣を身に付けさせましょう。

- 部活動を引退し、放課後などの自由な時間が増えると、時間を計画的に使うことがより大切になります。集中して学習に取り組むことができるように、趣味の時間や気分転換の時間をつくるなど、自分に合った学習スタイルを身に付けさせましょう。
- スマホ等の利用については家庭でルールを決め、睡眠時間を確保するなど、時間の使い方を考えさせましょう。
- 学習したことを定着させるためには、何度も繰り返し学習することが重要です。まとめ方を工夫するなど、保護者の経験も交えて、継続することの大切さを伝えましょう。

会話を大切にしましょう。

- 家族の支えがとても大切になる時期です。食事の時など、会話の時間をできるだけ多くつくり、色々なことを話すようにしましょう。
- 保護者もお子さまが取り組んでいることに関心をもち、進路決定に向けて生じるお子さまの悩みを共有しましょう。

◇こんなことをしてみよう◇

苦手教科の克服にこそ時間を割きましょう。

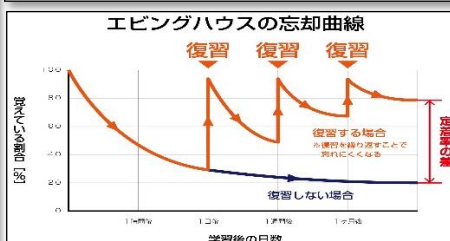
- 苦手な教科こそ繰り返し取り組み、苦手を克服するようにしましょう。友達や先生にアドバイスを求めると克服のヒントが見つかるものです。

長期の休業では・・・

- 夏休み中は、時間をかけて1・2年生の学習内容の振り返りをする絶好の機会です。
- 冬休みは、自分の進路に応じて学習方法を工夫し、計画的に学習に取り組みましょう。

あきらめずに継続しましょう。

- 授業などで学習したことは、復習に取り組むことによって定着を図りましょう。
- 復習は、学んだ直後の方が学習内容の定着に対する効果が高いと言われています。
- 繰り返し復習することで、忘れる量が減り、長く記憶することができます。



自分の心に残る一冊を見つけましょう。

- 読書は、学習の気分転換だけではなく、不安や悩みの解決や新たな考えや発見につながる可能性があります。
- 次のような本を読んでみましょう。
- 『きみの友だち』 重松 清
- 『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス
- 『旅に出よう』 近藤 雄生
- 『竜馬がゆく』 司馬 遼太郎

